

2020年9月8日

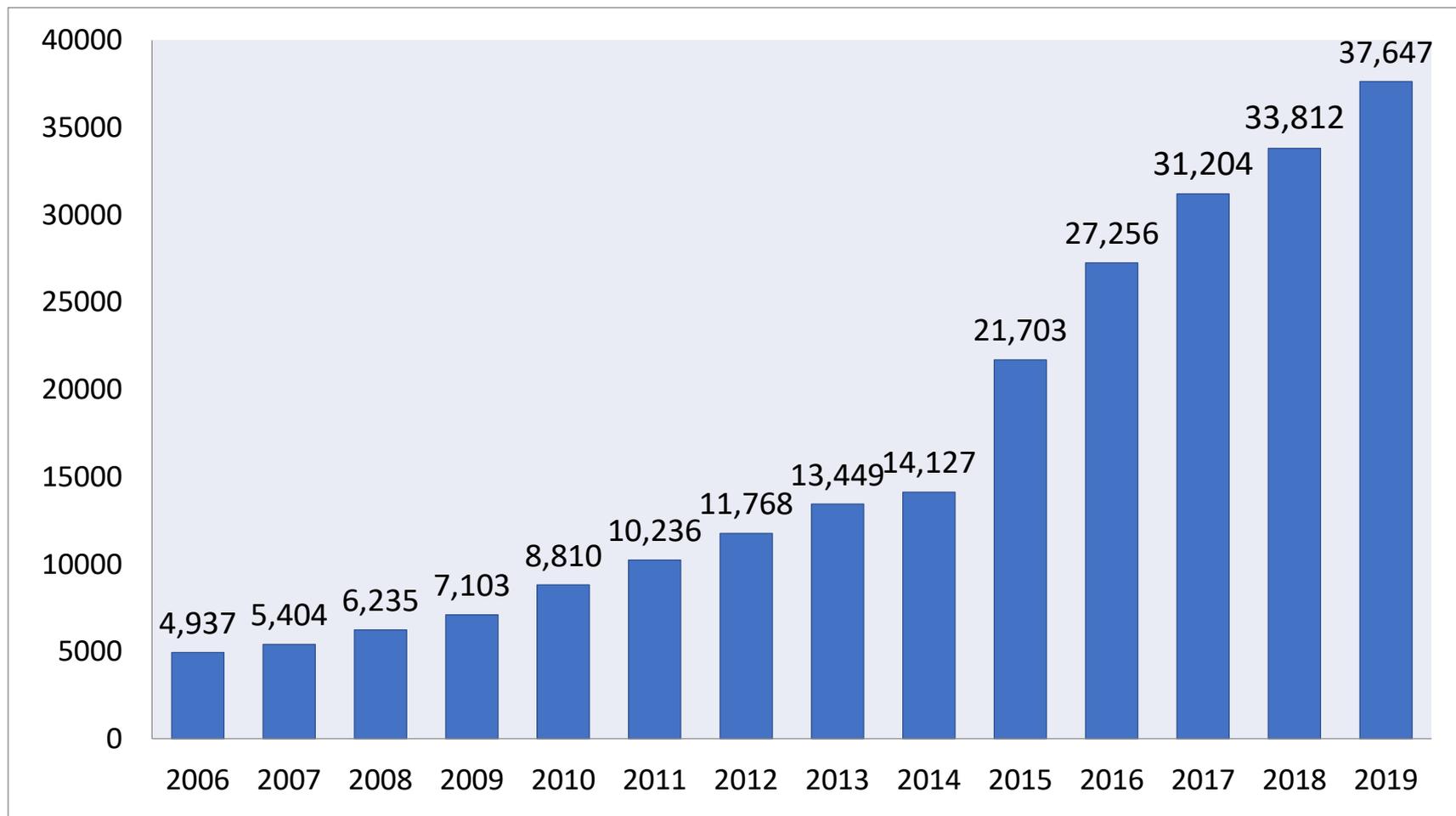
京都市保健福祉局障害保健福祉推進室
企業向け「個別意見交換会」オンライン説明会

大学における障害のある学生の現状 — 修学支援と社会移行支援

京都大学 学生総合支援センター 准教授 / 村田 淳
(障害学生支援ルーム・チーフコーディネーター)

○ 大学における障害のある学生への支援

■ 障害のある学生の増加推移

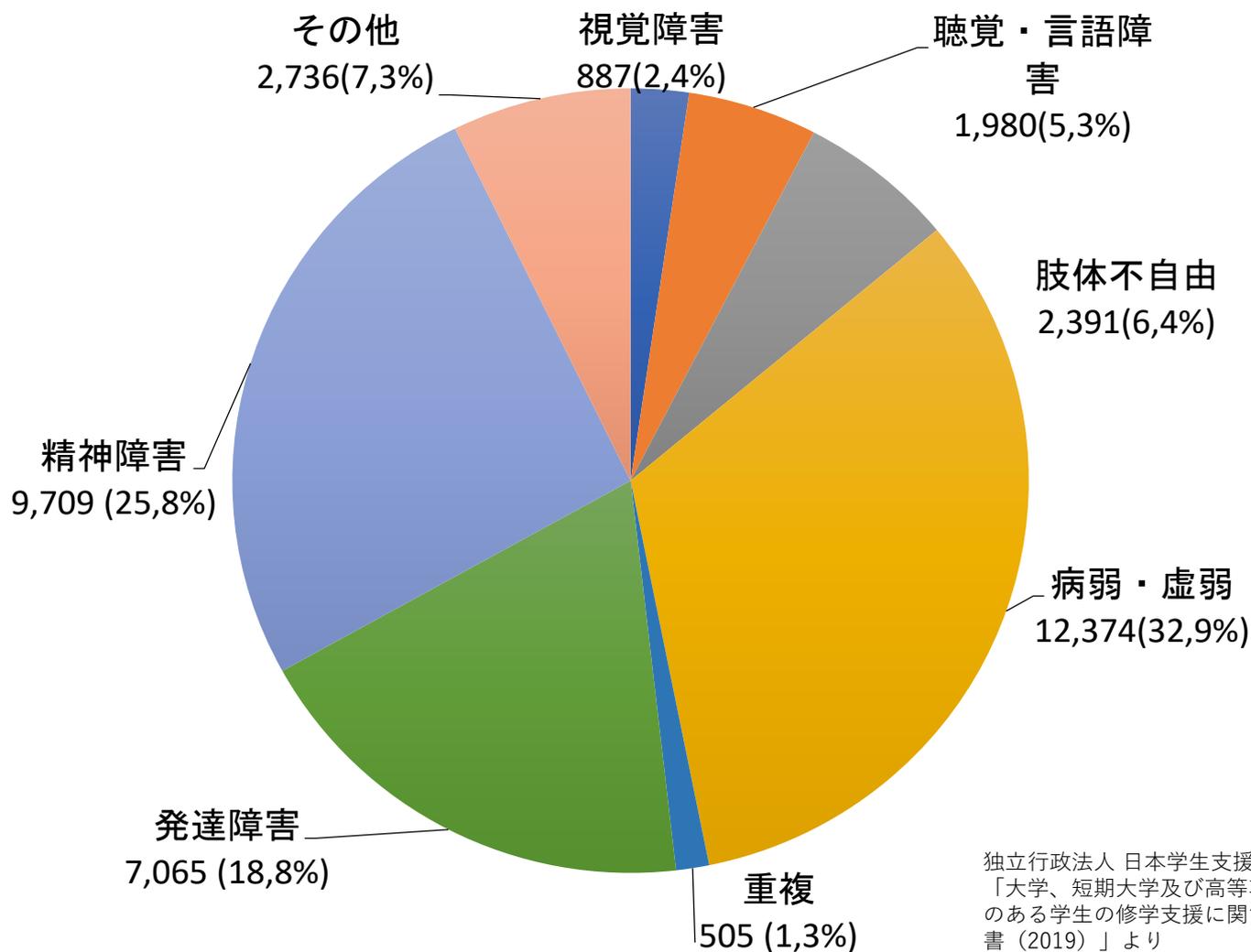


独立行政法人 日本学生支援機構 (JASSO)

「大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査結果報告書 (2006～2019)」より

○ 大学における障害のある学生への支援

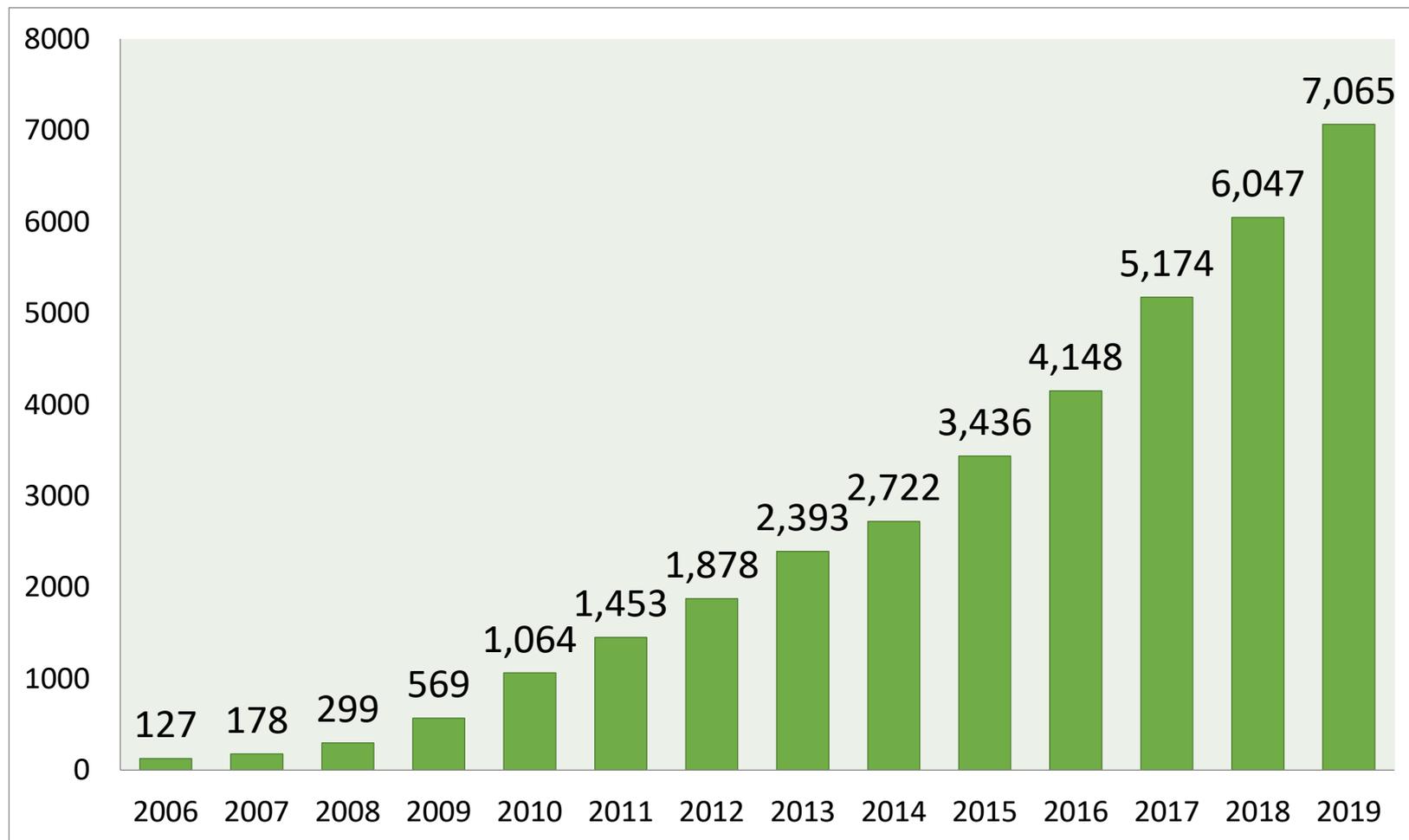
■ 2019年度の障害種内訳／37,647名



独立行政法人 日本学生支援機構 (JASSO)
「大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査結果報告書 (2019)」より

○ 大学における障害のある学生への支援

■ 発達障害のある学生の増加推移

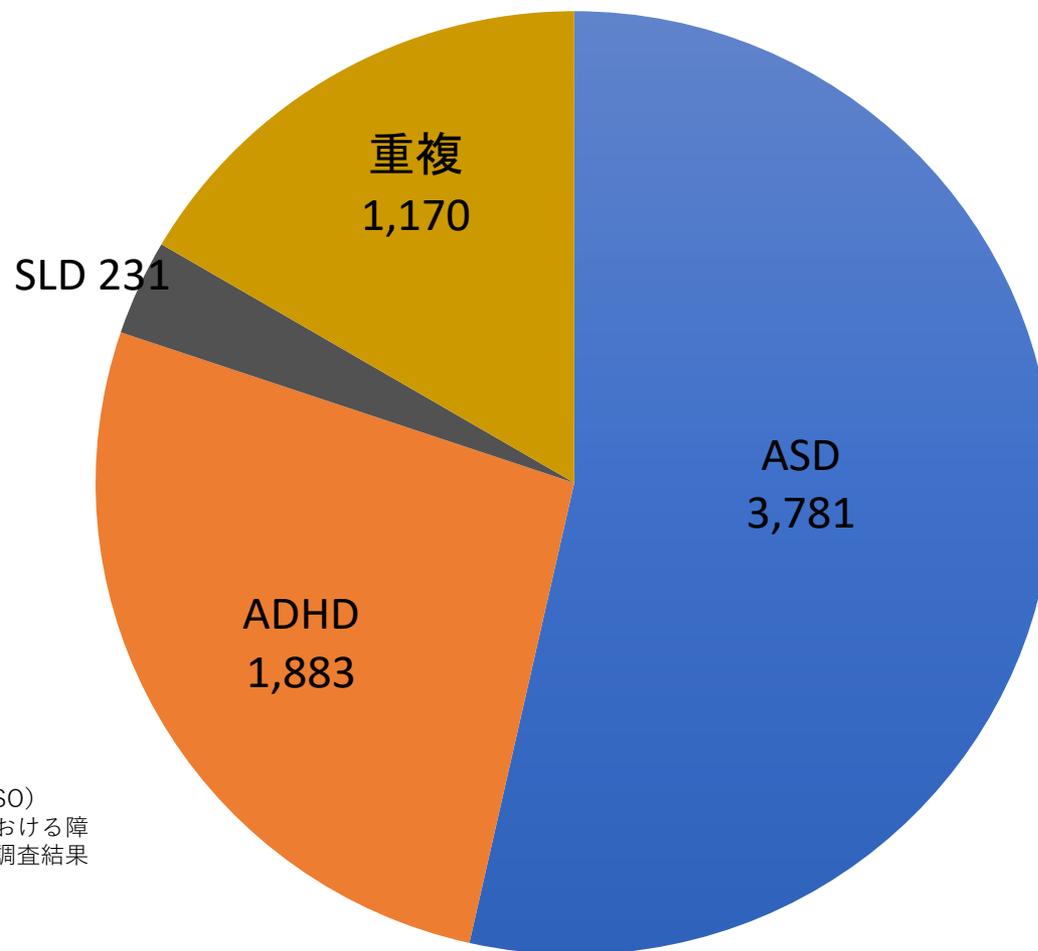


独立行政法人 日本学生支援機構 (JASSO)

「大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査結果報告書 (2006~2019)」より

○ 大学における障害のある学生への支援

■ 2019年度の発達障害のある学生数／7,065名



独立行政法人 日本学生支援機構 (JASSO)
「大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査結果報告書 (2019)」より

○就職活動における課題

《課題》

① 就職活動の複雑さ

- ・ 【一般雇用】と【障害者雇用】など諸制度の存在
- ・ 就労支援機関や障害福祉サービスの利用

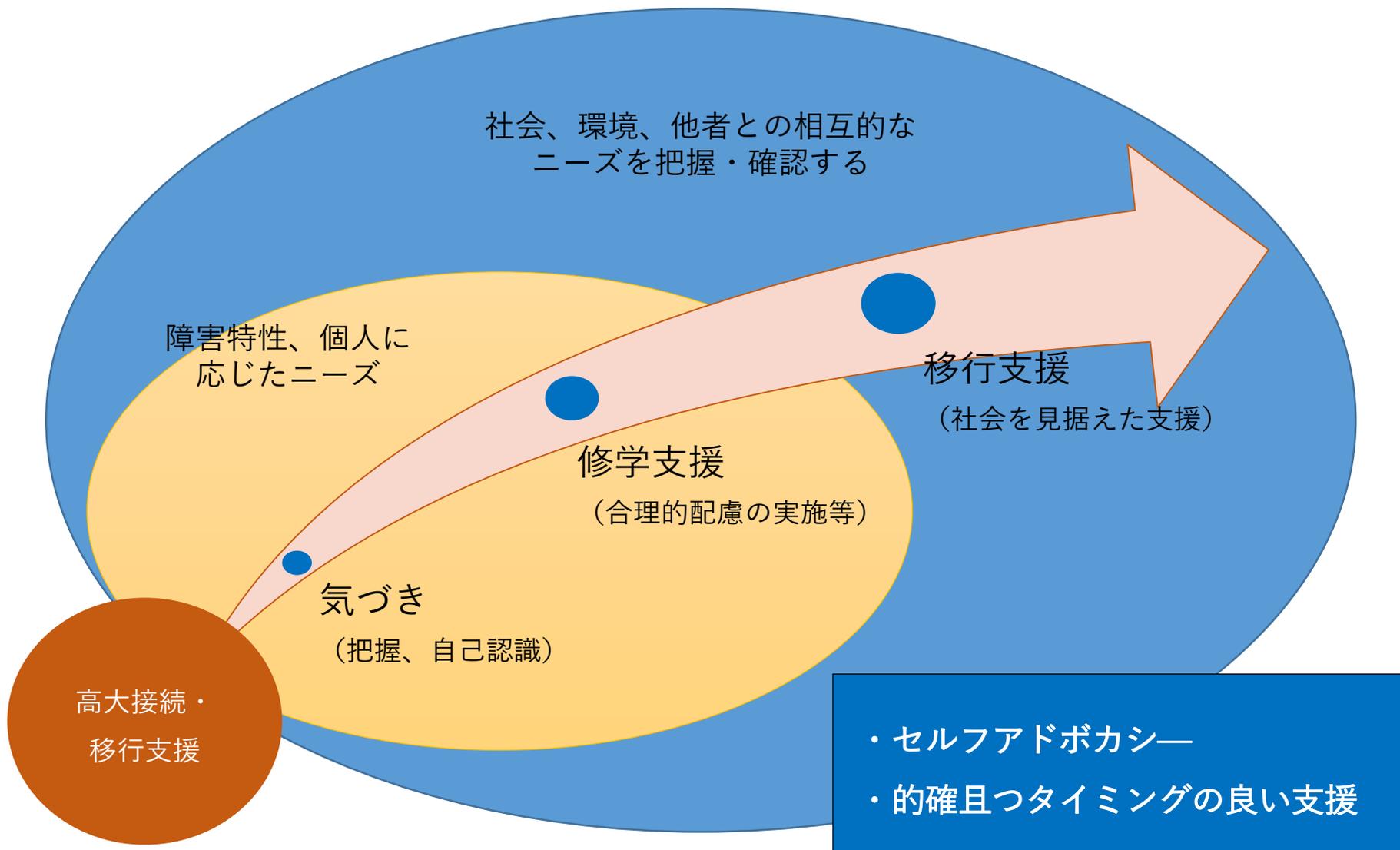
② モデルケースを周辺に見つけづらい

- ・ 就職後のイメージを確立するのが難しい
- ・ 自分に合った就職活動を円滑に行うことが難しい

③ 支援関係者が多岐にわたる

- ・ 学内支援者も多様
- ・ 学外支援機関や企業との連携が必要になる場合もある

○社会移行支援



○社会移行支援（例：京都大学におけるプログラム）

(1) 就労支援セミナー

- 「働くこと」を考える　－前期
　一般的な就職活動（クローズ就労）の進め方
　障害者雇用（オープン就労）の基礎知識
　自己理解・自己表現・自己管理の重要性
　地域の支援リソースの紹介
- 「社会への移行」を考える　－後期
　就労移行支援事業所を含む地域の支援リソース
　障害学生支援ルームの当事者スタッフによる体験談
- いずれもセミナーの後に「座談会」の時間を設定



○社会移行支援（例：京都大学におけるプログラム）

(2) 社会移行のための個別相談会（DEARセッション）

- ・相談担当者

協力の申し出をいただいた企業・支援機関など
※採用選考の場を提供するものではない

- ・相談内容の例

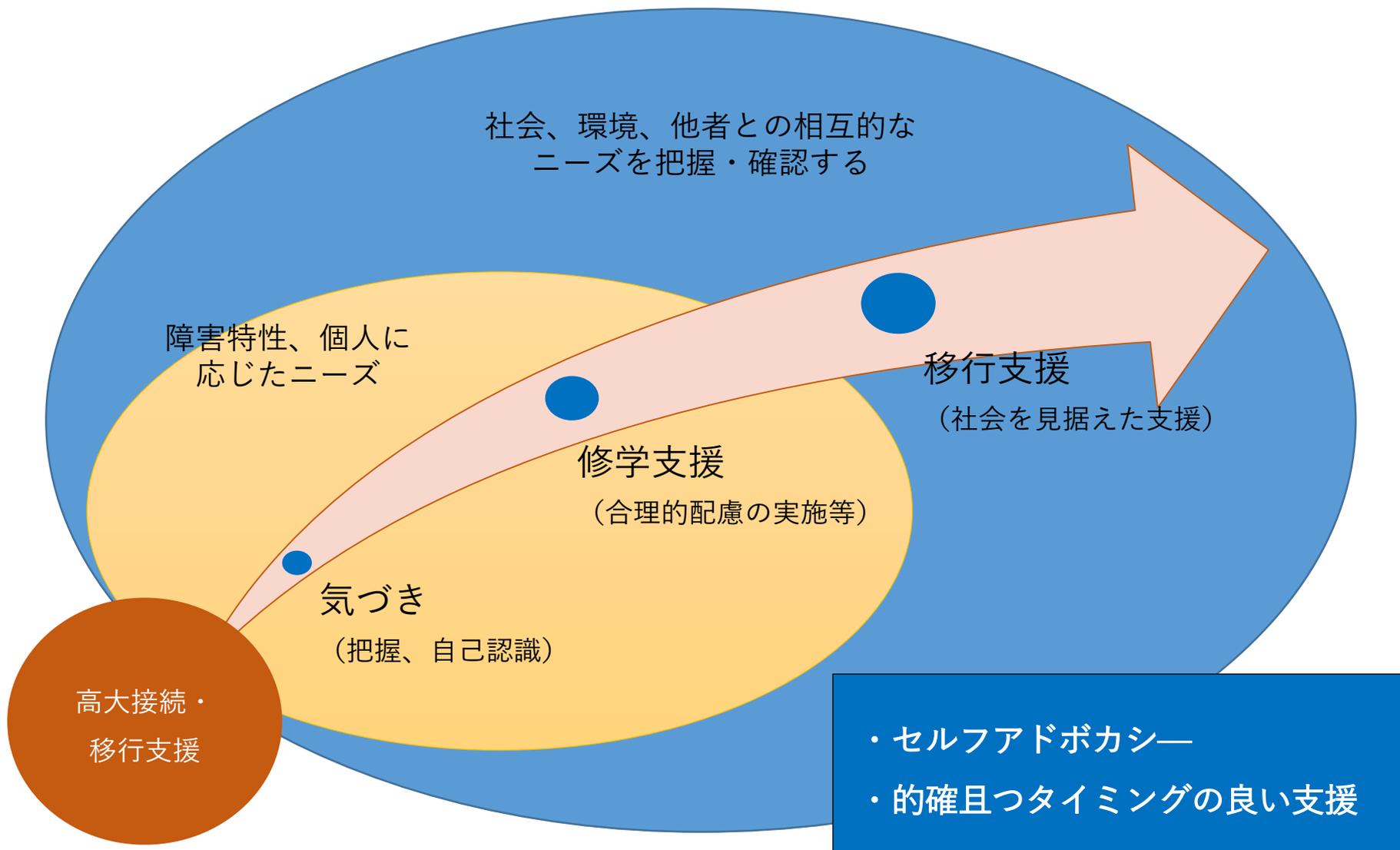
企業の中での障害者雇用の様子、
障害の状況や配慮を要する事項の整理、
就職活動に向けての助言、就職活動における悩みや不安、
就職後のキャリア形成全般について
社会で活用できるサポート資源 など

○社会移行支援（例：京都大学におけるプログラム）

(3) その他

- ・ 一般職業適性検査（GATB）、自己理解セミナー&アセスメント（MSPA）
- ・ 障害学生対象 学内インターンシップ（総務部人事課主導）
就職活動の際に必要な配慮等に関する事項の整理
参加準備のための職場見学や振り返りをサポート
- ・ 企業と連携したインターンシップ、キャリアセミナー
- ・ その他、行政や就労移行支援事業所との連携

○社会移行支援



ご清聴ありがとうございました。

村田 淳

京都大学 学生総合支援センター 障害学生支援ルーム

<https://www.gssc.kyoto-u.ac.jp/support/>

